

会報順番番号 V - 14

森林部門・総合監理部門
株式会社創信 長谷川洋昭

コロナ禍の二地域居住

はじめに

私の実家：生まれ育った家、は下呂市小坂町にある農家で、私は農林業者である。と同時に、私は美濃加茂市に住む都市生活者でもある。

12年前、私が65歳の時に亡き父から相続を受け、田畑1ha、山林20haに家屋敷がある、農林業者として田舎暮らしをしつつ、技術士として建設コンサル会社その他に勤務するサラリーマンでもある。この12年間、二地域の自治会、お寺、神社と付き合い、2自治体に税金も納めてきた。

今、「二地域居住」が注目を集め、若い方々の新しい生活様式として脚光を集めているが、私の場合はハイカラなトレンドとは程遠い、どん臭い、旧態依然とした、しがらみの多い「二地域居住」を報告する。

1.ふるさと飛騨小坂

私の「地域」の一つ、飛騨小坂は御嶽山の西麓にあり、旧益田郡小坂町である。平成の合併で現在は下呂市小坂町である。かつては林業と観光で栄えた町だった。林業は御嶽山山麓に豊富な木曾檜の天然林があった。しかし、1960～80年代に伐採され尽くしてしまった。その当時に、適切なSDGsが行われなかったため、貴重な天然ヒノキ林の保続生産が行われていない。鉱山資源の枯渇した鉱山町のような寂れた町となり、人口はここ50年で半減した。人口自体は100年ほど前の山村に戻ったといえるが、少子高齢化と地場産業の劣弱さはこの地の将来は明るいとは言えない。

我が家のある小坂町大島は町の中心集落に隣接し、JR飛騨小坂駅、市の診療所、こども園、郵便局、そして林野庁岐阜森林管理署がある。自治会にあたる組織は「区」と称し、下部に11の「組」がある。住民はほぼ区に加入している。(単身者アパートに入らない人がいる)我が家のある9組は32戸あったが、現在我が家を含めて4戸が空き家となっている。空き家中3戸は農家であり、区費を払っている。

飛騨小坂での私の産業活動は農林業である。農業、林業の生産者組織のメンバーとなっており、林業は末端の役員もやっている。我が家の農地はかつては100aあったが、住宅工場用地として大半が転用され、残りのほとんどは花卉としての南天栽培をしている。整

[日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先]

〒509-0108 各務原市テクノプラザ1-1 テクノプラザ本館 5F
TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email : gcea9901@ybb.ne.jp

枝剪定、施肥、除草作業が私の農作業である。5aほどはかつての家庭菜園であったが、現在は近所の非農家の家庭菜園として管理していただいている。林業は、20haの森林管理であるが、収入は無く、林道の管理負担金の支払いなどの出費で赤字である。今後は共同施業で木材生産をするべく生産者組織で準備を進めている。

2. すまいの地美濃加茂

2 地域目の美濃加茂は妻の家があるところだ。サザエさんの夫、ふぐ田マスオさんが磯野家に入り込んだと同様に私も妻の家に入り込んだ。我が家は、今は亡き義母と姓の異なる三世同居だったが、奇しくも今また姓の異なる娘婿一家と三世同居をしている。母系（義母一妻一娘一孫娘）で繋がっており、父系の強いわが国の家族形態とは異質の家系である。

美濃加茂市は昭和の合併で市になった、人口5万5千の小都市である。私が住む、古井町下古井は中心市街地に隣接し、県の総合庁舎、警察署、市のトップの民間病院がある。近年市街地の空洞化により、空き店舗、空き家が増加している。わが自治会には集合住宅も含め約50戸あるが、自治会加入者は3割である。飛騨小坂の居住に比べると、美濃加茂の地域の付き合いは誠に楽だ。余所者の寄せ集めの町内の自治会長は、小坂のわが集落の区長に比べたら1割以下の仕事しかない。それでも自治会役職を避けて自治会を脱会する人がいるのは驚きだ。

3. 二地域居住の初めの頃

父の死後、二地域居住は優雅とはほど遠いところから始まった。母の認知症が予想外にひどくなっていて、とても一人で自立した生活が困難な状態だとわかったこと。そしてよく転ぶ。診察受けたら脳梗塞とわかり、脳外科病院に入院した。医師及びケースワーカーの指導助言により、母の介護は我ら姉弟たちで担うことは互いに老いるため、長期的には無理となる。それで介護施設をあたるよう、下呂市内のお勧めの施設を紹介された。介護施設には、「グループホーム」、「老人保健施設（略称・老健）」及び「特別養護老人ホーム（略称・特養）」の3種類あることも初めて知る。入院中に各施設に申込みに行ったが、容易には入所できそうにないということがわかって愕然とした。何とかして高額なグループホームにお世話になり、しばらくして老健へ、更には数年後、特養に入所できた。各施設の入所折衝回りと下呂市役所の福祉手続き、入所した施設の手続きで仕事の合間は忙殺された。それに父の相続が厄介だった。それに父の死と、母の認知症により、地域（田舎）のお付き合いに家屋敷の管理は私にかかって大変な負担だった。積雪時にわが屋敷と畑の間を通る歩道（いわゆる筋骨・赤道）は子供たちの通学路であって我が家で除雪しなければならない。そのほか、水路掃除、所有地の草刈り等田舎暮らしのため行うべきことが多

いが、不在者につきほとんどの付き合いを免除してもらった。

その後、介護施設及び下呂市とのお付き合いに慣れ、余裕ができた。それで、美濃加茂で老人クラブ、合唱や登山の趣味のサークルを始め、地域に知り合いができることにより、地域活性化及び共助の福祉活動と忙しくなり、小坂行きも少なくなっていた。

3、コロナ禍の二地域居住

今年の2月末、新型コロナウイルスの感染予防のため、様々な行動制限がなされた。美濃加茂市では市の施設がほとんど閉鎖された。そのため老人クラブ、趣味のサークルの活動から福祉団体活動まで制限された。さらに4月中旬以降仕事も停止となった。母の施設訪問も一切できなくなった。不要不急の外出も自粛圧力がかかった。「遊び」は自粛警察の目が厳しいが、農林業の生産活動は不要不急ではなく、必要緊急の仕事だ、と理解し、合点して飛騨小坂での農林業に励むこととした。

後期高齢者の私の労働時間はせいぜい1日4時間、暑いときは早朝夕方のみ働き、あとはふるさと探訪を行った。普段は自動車で移動してばかりで、歩いていない。わが集落の裏道や、近郷のウォーキングを行った。50年以上昔に遠足で行った隣町の小学校や名所旧跡も訪ねた。ふるさとを歩けば人に出会い、知り合える。もちろん知人にも会える。

終わりに

こうしているうちに、2020年の忘れえぬ出来事が二つ起こった。

・飛騨小坂の水害

7月8日(水)未明に美濃加茂の我が家で換気口の一つから激しい漏水があった。丁度その時は下呂市北部から北の高山市東部は水害に襲われていたのだ。その日はTVニュースをよく見た。小坂中心部の谷川があふれた泥流災害、門坂の国道崩落、松尾の住宅直下の浸食・・・全国ニュースに飛騨小坂が出まくった。飛騨川のこのような洪水は伊勢湾台風以来だ。災害ボランティアは下呂市民に限るといふ。私は半分青いが不参加・・・

・母の入院・死亡そして葬儀

8月1日夕方、母の入所施設の看護師さんから緊急電話があった。「ここ数日食欲なく、微熱が続き、ただ今は息苦しそうで、救急搬送中。至急下呂病院へ来られたし」と。翌未明に診察終わって担当医から説明。新型コロナ肺炎でなかった。急性心不全による急性肺炎だ。コロナ禍で見舞はお断りで病棟はひっそりしている。母は結局百歳と7か月で12日に死亡。私の喜寿の誕生日の翌日だった。14日にひっそりと家族葬を行った。